

オーガニックビレッジ全国集会in木更津

オーガニックビレッジ ～現状と課題、これからの期待～

令和7年10月31日

農林水産省

農産局農業環境対策課

なぜオーガニックビレッジの取組を始めたのか

- 2006年に有機農業推進法が制定され、2021年にはみどりの食料システム戦略が策定。2022年にはオーガニックビレッジの支援を開始。
- 2030年に向けて、より多くの農業者が、持続可能な農業・有機農業に取り組みやすくするため、個々の農業者の**点の取組**から、幅広い関係者と協力した**面的な取組への展開**を進めていくことが重要。

有機農業面積 2009年：1.63万ha

2022年：2.66万ha

2024年：3.45万ha

2006年 有機農業推進法制定

全国各地に有機農業者、
有機農業者グループが点在。



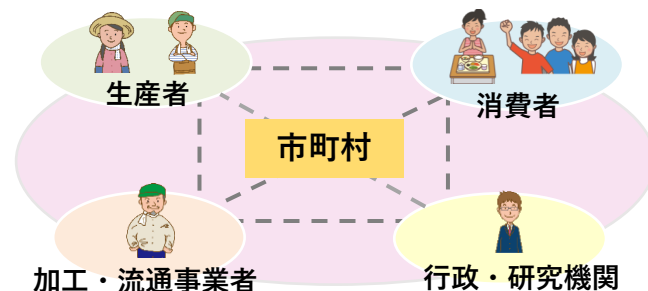
2021年

みどりの食料
システム戦略
策定

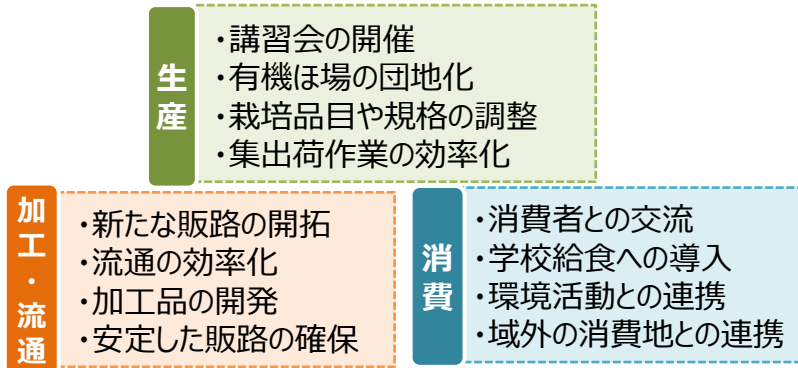


2022年～ オーガニックビレッジの取組を開始

- ・市町村のリーダーシップのもと有機農業の産地づくり
- ・地域内で生産から消費まで取組む体制を構築



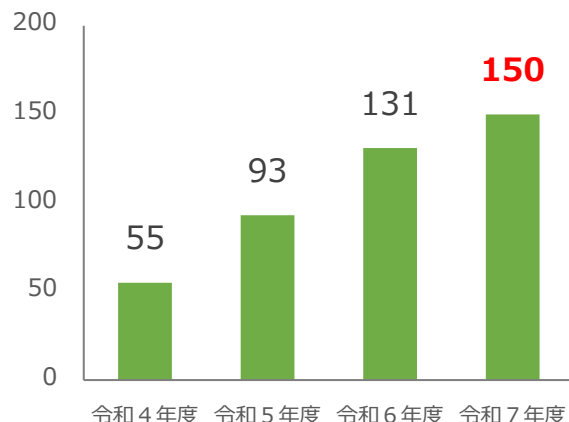
▼オーガニックビレッジの取組内容のイメージ



オーガニックビレッジの現状

- 令和7年度までに46都道府県150市区町村がオーガニックビレッジの取組を開始。
- 150市区町村のうち、9割の135市町村において学校給食に関する取組を実施するなど、各地で有機食品の活用の取組が拡大。

オーガニックビレッジ市区町村数



▼オーガニックビレッジの取組事例▼

【技術実証】

データに基づく有機栽培技術の実践や除草作業を中心とした省力化機械（水田除草機）の導入等により、地域全体で有機農業に取り組みやすい体制を整備し、大幅な面積拡大を目指す。（越前市）



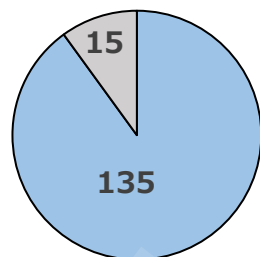
【加工・販売】

有機米を使った米菓製造販売や、有機酒米を使って新たな日本酒づくりを行うなど、市内の事業者が連携して付加価値の高い商品を作り、ブランド化を目指す。（南砺市）



オーガニックビレッジ市町村における学校給食での有機食品の利用状況

（令和7年度）



■ 利用している
□ 利用していない

※計画段階の取組も含む

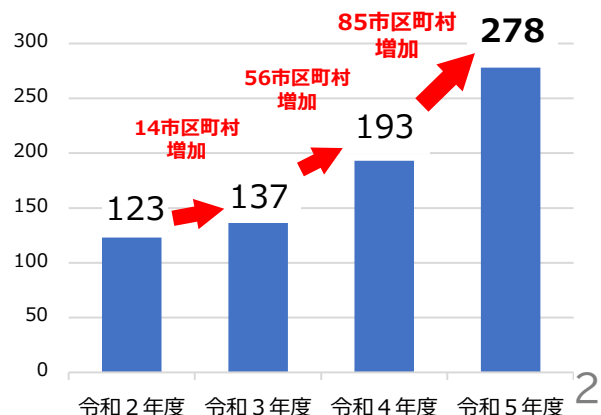
9割のオーガニックビレッジが給食の取組を実施

▼自治体の連携事例

【全国オーガニック給食フォーラム】 （令和5年度～）

令和5年6月に、オーガニック給食の実現を目指す自治体、農業関係団体、流通事業者、市民団体等の多様な主体で構成された**全国オーガニック給食協議会**が設立された。

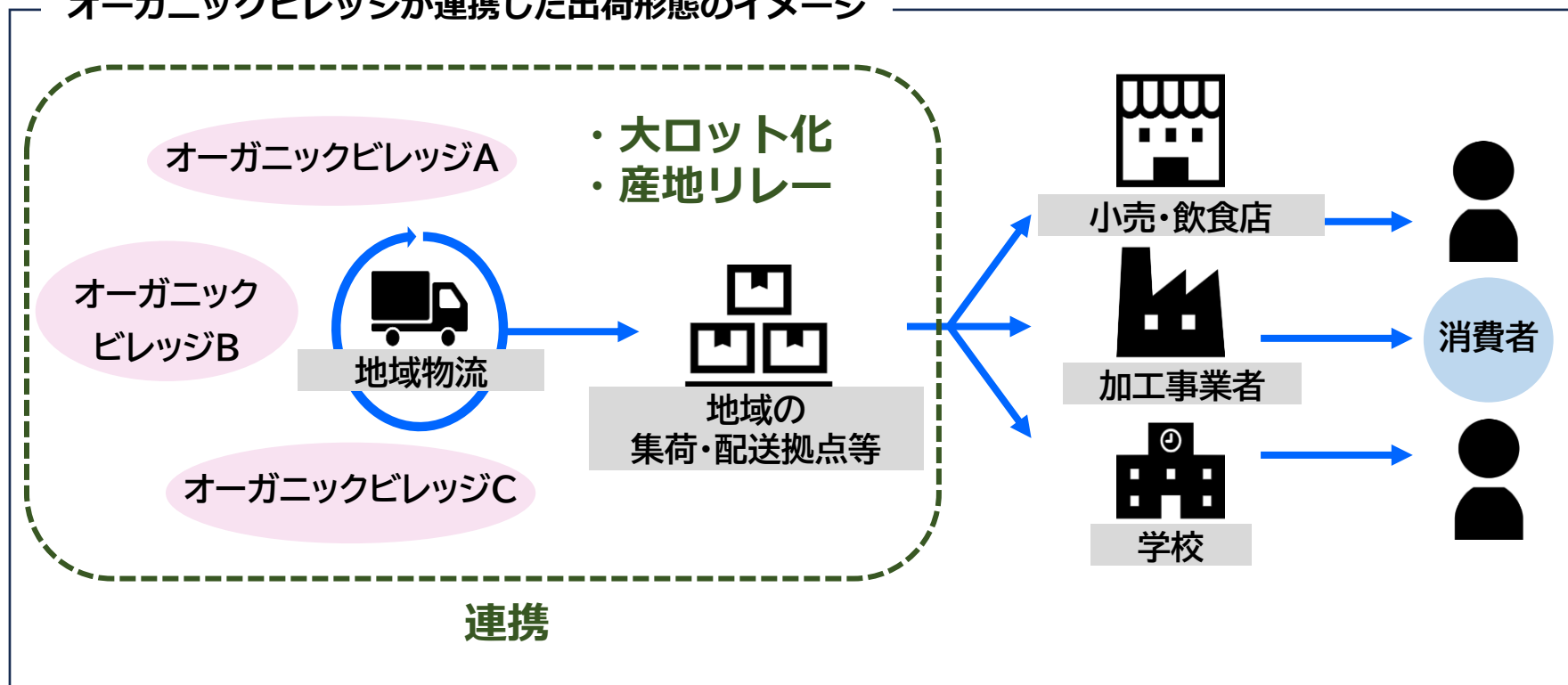
【参考】学校給食で有機食品を利用している市区町村数（全国）



オーガニックビレッジ間の連携による広域的な流通体制の構築

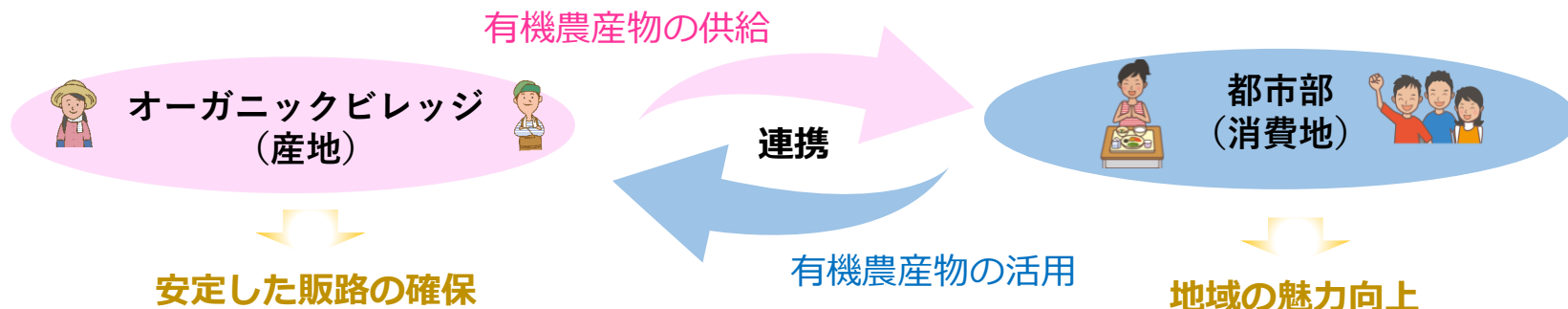
- 有機農産物の取組を更に拡大していくためには、大手小売り店や全国チェーンの飲食店等大口の販路への販売を進めていく必要がある。
- 大口の販路へ販売していくためには、オーガニックビレッジ同士が連携して大口ロット化や産地リレーに取り組むことが重要。

オーガニックビレッジが連携した出荷形態のイメージ



オーガニックビレッジ（産地）と都市部（消費地）との連携の拡大

- オーガニックビレッジの取組を更に拡大していくためには、地域内だけでなく、地域外にも安定した販路を確保する必要がある。
- 特に、学校給食等で有機農産物を活用したい都市部の消費地との連携は、双方にメリットのある取組であり、取組事例が増加傾向にある。



【取組事例】北海道旭川市×大阪府泉大津市

- 令和5年8月、旭川市と泉大津市の間で有機農産物の供給等に係る連携協定を締結
- 令和5年度に旭川市産有機JAS米「ゆめぴりか」を約20t購入し、令和6年7月から学校給食にて提供



【新たな取組事例】

- 宮城県大崎市×台東区（両方オガビレ）
- 福井県越前市×東京都荒川区・長野県軽井沢町
- 新潟県津南町×世田谷区

etc

増加中!!



スモールステップからはじめる
学校給食での地場産物等
活用のためのガイドブック



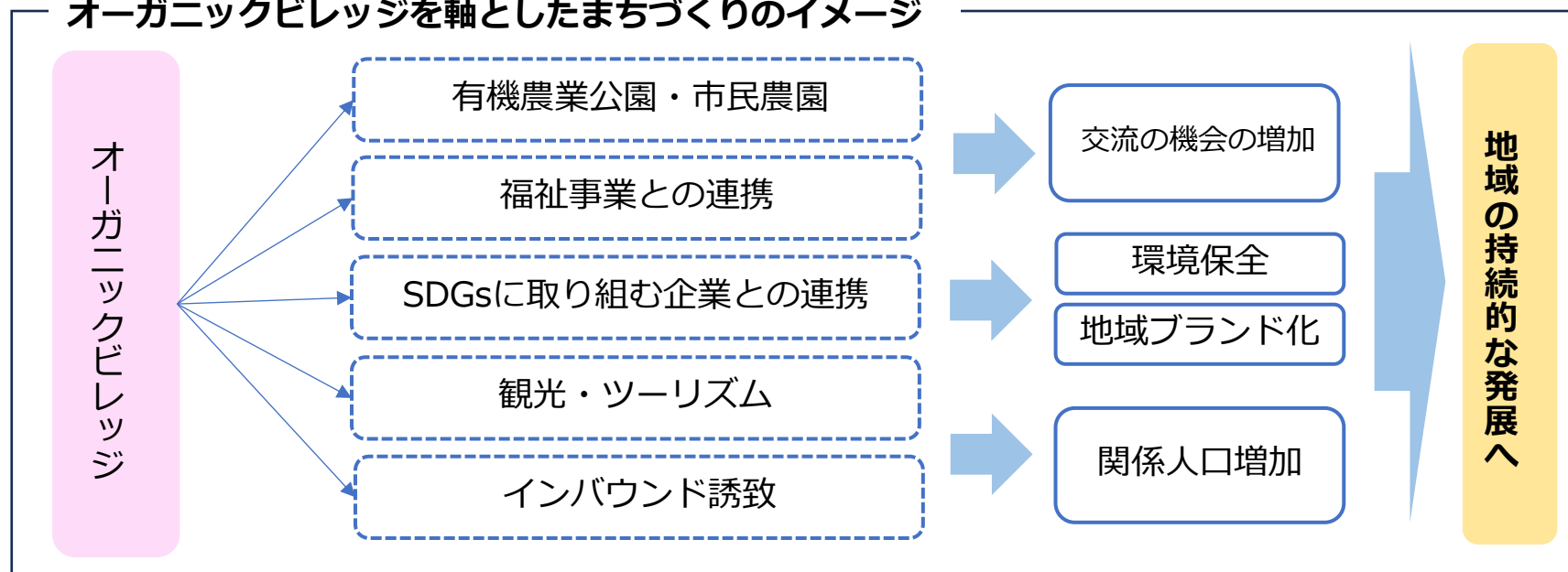
有機農業の地域づくりのヒント
オーガニックビレッジの考え方進め方
事例・質問集

これからのオーガニックビレッジと発展③

オーガニックビレッジを軸としたまちづくり

- ▶ オーガニックビレッジを軸として、様々な関係者や地域住民とともに、市民農園での交流や環境保全等に取り組むことで、関係人口の増加につながり、地域の持続的な発展を可能とする。

オーガニックビレッジを軸としたまちづくりのイメージ



【取組事例】

- 地域おこし協力隊制度を利用した新規就農希望者の受け入れを行う。（高山村）
- 「有機農業を核とした有機的な繋がりが広がるまちの実現」を提案し「SDG s 未来都市」に選定。（山都町）
- 有機農業の拠点として、市民農園やイベントの開催等で活用できる「オーガニックビレッジパーク」を創設予定。（亀岡市）

2027年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）について



国際園芸博覧会とは、国際的な園芸文化の普及や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造や社会的な課題解決への貢献を目的に開催される国際的な博覧会です。

グリーン エクスポ ニーゼロリーナ
GREEN×EXPO 2027 (正式略称)

「GREEN」
「植物」、「花」、「緑」を総称する言葉であり、「自然」、「環境にやさしい」という意味



「EXPO」
国際的に共通する課題の解決に寄与する国際博覧会

- **SDGsの達成やGX（グリーントランスフォーメーション）の実現**に貢献する博覧会として、これからの自然と人、社会の持続可能性を追求し、世界と共有する場を目指す
- **グリーン社会の実現**に向け、2030年以降も見据えつつ、多様な主体の取組を共有する場を目指す

公式マスコットキャラクター
「トウンクトウンク」



場所：神奈川県横浜市旭区・瀬谷区
（旧上瀬谷通信施設の一部、約100ha）
期間：2027年3月19日～9月26日
テーマ：幸せを創る明日の風景

～Scenery of the Future for Happiness～
開催者：(公社)2027年国際園芸博覧会協会

GREEN×EXPO 2027 全国連携プログラムのご案内

気候変動対策や生物多様性の確保などの社会的な課題解決等への貢献を目指し、GREEN×EXPO 2027と連携して、花・緑・農・食等「GREEN」に関する施策を更に進める取組です。関連するイベントや活動等において「GREEN×EXPO 2027全国連携プログラム公式ロゴマーク」を活用し、一体的に取組を進める活動を募集中！

【参加特典】

- ・以下のロゴの使用が可能。
- ・農水省等HPへの掲載、SNSでの情報発信等。



案内HP